

回転サーチライト禁止について

本誌2月号に「回転サーチライト禁止について」の文書を拝読しました。1972年10月8日ジャコビニー流星雨の予報に対してその前年1971年から始めたサーチライト禁止の運動も、30年余の歳月をへて世間から忘れ去られようとしている。本年はニート、リニア両大彗星も近づくというからこれを機に当時を偲びながら天文学会や「星空を守る会」のご健闘を祈りつつ、「星空を守る会」の前身「日本星空を守る会」の活動を簡潔書きに一筆いたします。

1. 1972年4月2日

国立科学博物館にて「日本星空を守る会」発足。

2. 1972年5月24日

環境庁に大石武一長官等を訪ね、回転サーチライト規制についての要望書を直接提出。同日、日本天文学会年会にてアマ、プロ一体となって取り組むことを提案。満場一致して提案が確認された。プロは石田五郎理事が要望書を作ることとなった(学会からの要望書は同年8月に提出)。

3. 1972年7月29日

光害防止全国大会開催(文京区民会館)。当時の川村幹夫氏の調査では全国で80カ所以上の回転サー

チライトが回っていた。光害という言葉は川村氏の提案で、その後、学術用語としても認められる。

4. 1972年9月

サーチライトのある企業へ流星雨当夜の消灯の依頼状を発送、有名なホテルニュージャパンの横井英樹氏はじめ各企業からOKの返事がくる。

5. 1972年9月6日

小山長規環境庁長官閣議で要望。文部省も各地へ通達を出す。

6. 1972年10月8日

流星雨は不発に終わったが銀座のネオンまで消え、消灯運動は大成功。

その後も光害防止の署名運動等を行い、1996年9月24日ヘルボップ彗星接近時には川崎天文同好会有志で岩垂寿喜男環境庁長官に直接要望書を提出した。

終わりにこの運動に心魂を傾けられた日本星空を守る会会長故青木正博氏に哀悼の意を捧げて擲筆いたします。

元日本星空を守る会事務局長 箕輪敏行(川崎市)

編集委員 土橋一仁(編集長), 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司, 亀野誠二, 濤崎智佳, 藤田 裕, 洞口俊博, 増田 智
 平成16年4月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp